

Title	創立10周年記念講演会挨拶
Sub Title	
Author	鈴木, 正具(Suzuki, Masatomo)
Publisher	慶應義塾大学大学院法務研究科
Publication year	2015
Jtitle	慶應法学 (Keio law journal). No.32 (2015. 7) ,p.64- 65
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應義塾大学大学院法務研究科創立10周年記念講演会
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1203413X-20150707-0064">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1203413X-20150707-0064</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 創立 10 周年記念講演会 挨拶

鈴木 正具 (三田法曹会会長)

(司会 澤田) 最後に、三田法曹会鈴木正具会長から、ご挨拶をちょうだいします。

(鈴木) 三田法曹会の鈴木でございます。今日は 10 周年にこういう素晴らしい会ができて本当に喜ばしく思います。今までの、あるいは去年の司法試験の成績から、本当によかったねと、お祭りムードでにぎやかに終わってしまうのかなと思っていたのですけれども、第 1 部も第 2 部も実質的な議論ができ、非常に素晴らしいものでした。ここにいる我々にも非常に参考になりました。ぜひ現役の院生とか、あるいはこれからロースクールに入りたいという人たちにも聞かせてあげたいと思う、本当に実質のある議論だったと思います。

挨拶として 2 点ばかり話をさせていただきたいと思います。1 つは、三田法曹会で『てみす』という会報を出しているのですが、10 年前にどんなことが書いてあったかなと思ひましてちょっと見てみました。2004 年 6 月発刊の『てみす』には、最初に、河村貢先生に対しての豊泉貫太郎先生の追悼文が載っておりました。河村先生は三田法曹会の元会長であり、慶應義塾評議員として、このロースクールが立ち上がるときから、あるいはその随分前から準備をされて、三田法曹会が全面的に支援を行うべきだということで随分とお骨折りされたと理解しております。その結果としてこういう隆盛を見ていると思うのです

けれども、残念ながらロースクールの開設直前の 2 月に急に亡くなられてしまいました。本日この場におられないことが非常に残念に思います。それが 10 年という歳月の意味なのかなとも思います。河村先生、あるいは堀口磊藏先生、それから最近では豊田健元裁判官、ロースクールに尽力された方が亡くなられています。この場におられないのが本当に残念だなと思います。ただ三田法曹会としては、今後も全力を尽くしてロースクールを支援していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それからもう 1 つ、ロースクールができて卒業生が司法修習生として地方に行くようになって、地方の三田会、あるいは三田法曹会の支部というのがあるんですけれども、そういうところでロースクール卒業生を招待して、歓迎会をして、終わりに、さあ『若き血』を歌おうと言うと歌えない人がいるというので、がっかりされたという話が伝わってきます。

今日、最初に塾歌をみんなで斉唱しましたが、これもできる限りそういう現象を少なくしようという試みかなと思いました。ただ『若き血』を卒業した段階で歌えなくても、別にそれは構わないと思うんですね。福澤先生が『若き血』を歌ったわけでもありませんし。(笑) そういう意味では慶應とのお付き合いは長いですから、これから長いお付き合いの中で覚えていただければよいのかなと思っています。

『若き血』を覚えるよりも、やっぱり福澤先生の教えとか、あるいは三田の伝統、三田法曹会の伝統、それは社中の協力とか、先ほども出ていました「半学半教」とか、先輩が後輩を教えるということだと思うんですね、これをぜひ慶應ロースクールの揺るぎない伝統として築いていただきたいと思います。

シンポジウムの中でも、皆さん本当に頼もしい発言があったと思います。パネリストの 10 名の方に限らず、これから若い人たちがまたロースクールに戻ってきて、教えて、一緒に学ぶということで、ぜひロースクールの発展を実現していただきたいと思います。

以上の 2 つをもって私の挨拶とさせていただきますと思います。10 周年本当におめでとうございました。ありがとうございました。(拍手)